

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」第3回ピッチイベント開催

- インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」は、自治体（施設管理者）が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者等が課題解決に繋がる技術等を紹介する**第3回ピッチイベント（技術提案会）**を実施しました。
- ピッチイベントでは、2つの課題に対し、民間事業者等8社が自社製品やサービスの紹介を行い、紹介された技術に対し、施設管理者から積極的な質疑（施工条件、価格等）等、意見交換が行われました。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン形式で開催し、全国から多数の傍聴者にも参加いただきました。



- 日 時：令和3年8月31日（火）14:00～16:30
- 開催形式：オンライン形式（配信会場は復建調査設計（株））
- 参加者：約70名（JCIMちゅうごく、自治体・民間企業、中国地整等）
- 課題①：下水道施設において発生する硫化水素により通常より急速に劣化が進むコンクリート構造物の腐食劣化対策
- 課題②：プラスチック貯留材等を利用した仮設盛土の代替え工法

■ 課題①（課題提供：津山市、萩市）：5社が提案

○ 自社製品やサービスの紹介



▶ 「ジックボード工法」：日本ジッコウ



▲ 質疑応答・意見交換の状況

■ 課題②（課題提供：島根県）：3社が提案

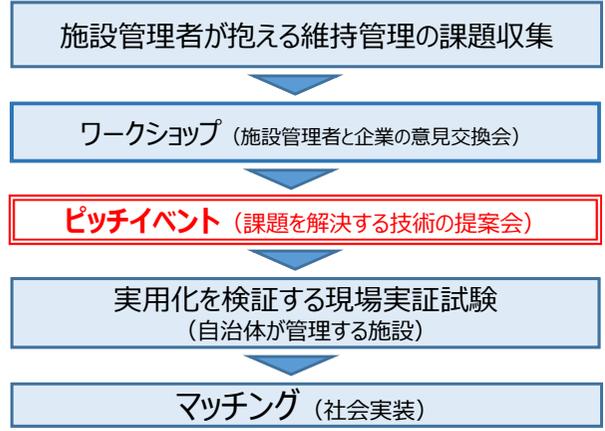
○ 自社製品やサービスの紹介



▶ 「ニュープラクン」：秩父ケミカル株式会社



▲ 質疑応答・意見交換の状況



課題解決へピッチイベント 2テーマに8社がプレゼン —— JCIMちゅうごく ——

「本務める広島大学の藤井 堅名誉教授は、このピッチイベントは、企業間のシス管理者側のニーズをマッチングし、より具体的に探知していただくためのイベント。使えそうな技術は、管理側からフィードバックをもらい、実証試験を実施することになる。その実証試験に向けて、活発な意見交換がなされ、互に切磋琢磨していった。」

今回、地方自治体から提供されたテーマは①下水道施設において発生する硫化水素により、通常より急速劣化が進むコンクリート構造物の腐食劣化対策と②プラスチック貯留材等を利用した仮設盛土の代替え工法について、約50分間の質疑応答が行われた。①のテーマは、通常劣化よりも急速に劣化するコンクリート防食技術を求めるもの。津山市と萩市がニーズ提供を行った。これらに対して、計8社がプレゼンを行った。②のテーマを推したのは島根県。河川工事の仮設盛土には、コンクリート製の盛土が一般的だが、小規模工事になると仮設盛土の本体工事費が割高になる。そこで、仮設盛土の代替えとして、プラスチック貯留材等を利用した仮設盛土の代替え工法について、島根県がニーズ提供を行った。これらに対して、計3社がプレゼンを行った。①のテーマは、通常劣化よりも急速に劣化するコンクリート防食技術を求めるもの。津山市と萩市がニーズ提供を行った。これらに対して、計8社がプレゼンを行った。②のテーマを推したのは島根県。河川工事の仮設盛土には、コンクリート製の盛土が一般的だが、小規模工事になると仮設盛土の本体工事費が割高になる。そこで、仮設盛土の代替えとして、プラスチック貯留材等を利用した仮設盛土の代替え工法について、島根県がニーズ提供を行った。これらに対して、計3社がプレゼンを行った。

オンライン開催のもよう

会場でも開催された。オンライン開催は、会場から参加できるというメリットがある。また、会場から参加できないというデメリットもある。会場から参加できないというデメリットは、会場から参加できないというデメリットがある。会場から参加できないというデメリットは、会場から参加できないというデメリットがある。

▲ 令和3年9月3日 中建日報